

浄土



寺院紀行

福島・郡山 善導寺 真山 剛

『選択本願念仏集』講義余話 阿満利磨

あなたもお寺のCIO

広報の最新定義と情報戦略 小路竜嗣

浄土

2023/11月号 目次

カラーグラビア=寺院紀行 福島・郡山 善導寺	真山 剛	1
寺院紀行 福島・郡山 善導寺	真山 剛	6
ぶつぶつ放談 他宗を知ろう「日蓮宗」その2	高松孝行 灘上智生	12
近現代浄土宗史 第3回 逆風に立ち向かった仏教者たち	吉田淳雄	20
寺々刻々③⑤ 全国に広がる樹木葬.....	鷓鴣秀徳	28
「選択本願念仏集」講義余話5回 かつがつ.....	阿満利麿	32
林海庵・開教奮闘記① 国際開教(二)	笠原泰淳	36
漫画「浄土宗のお祖師様」四祖良暁上人 第3回	ぐんじまん	41
あなたもお寺のCIO⑱ 広報の最新定義と情報戦略 ...	小路竜嗣	44
微風吹動 エーヴァム マヤー シュルタム	石田一裕	48
編集後記		52
心に響く言葉⑦	長谷川岱潤	表2



表紙題字=中村康隆元浄土門主

表紙絵=貞林院瑞正寺二十五世 林錦洞「若」金文文字

アートディレクション=近藤十四郎

開教奮闘記

14

国際開教(二)

林海庵開山上人

笠原泰淳



かさはら たいじゅん

昭和三十三年東京生まれ。慶応大学経済学部卒。日本通運(株)に入社、八年勤務し浄土宗東京教区貞源寺の故藤木芳清師に師事。佛教大学に学び、浄土宗僧階取得。東京教区心光院に約十年勤務。平成十四年「林海庵」を設立。翌年、同寺が浄土宗寺院として承認され住職となる。現在、浄土宗開教振興協会副理事長。

私の中で、外国人向けの開教に対する関心が高まってきた。その要因の一つは、国内開教の寺院立ち上げがひと段落したこと、そしてもう一つは周囲の状況の変化である。

周囲の状況の変化——一つには「マインドフルネス」の普及である。

この十年ほどの間、マインドフルネスという言葉とともに、仏教の瞑想法、またそこからヒントを得た健康法や精神集中法が広く用いられるようになった。欧米で仏教に対する関心が高まっている、という話もよく見聞きするようになった。

彼らの多くは「先祖代々仏教徒だから」という理由で仏教に親しむわけではない。一個人として、仏教の教えが素晴らしいと思うから、あるいは瞑想のような実践が魅力的だからという理由で仏教に関心をもつ。チベット仏教のダライラマ十四世の活躍も、仏教の世界的な広がり大きく貢献し

ている。

欧米の人々、特に新しく仏教に触れた人々の関心の対象は、おおむねチベット仏教や禅、テラワダ仏教に限られている。いずれも私たちがいうところの「自力」の道である。浄土の教えは海外ではまだまだ知られていない。だが、海外で坐禅や瞑想などの自力修行を続けている人の中で、限界を感じる人たちが必ず出てくるであろう。

「自分には坐禅や瞑想は向いていない。だが自分は仏教徒として人生を歩んでゆきたい。

仏教の広い教えの中に、こんな自分に向けた修行はないものだろうか。」

そういう人たちが間違ひなく現われる。彼らはいつか、法然上人のお念仏の教えに目を向けるであろう。今こそお念仏の教えを広く世界に伝える好機ではなからうか。

もう一つの新しい状況は、インターネットの広がりだ。外国人向けの布教はすでに、海外の開教

区・開教地の各寺院が担っている。だが日本からでも、ネットを通じてできることがあるはずだ。自坊にいながらにして、海外向けに開教できる環境が整ってきた。

「わが遺跡は諸州に遍満すべし。ゆえいかんとなれば、念仏の興行は愚老一期の勸化なり。されば念仏を修せん所は、貴賤を論ぜず、海人・漁人が苫屋までも、みなこれわが遺跡なるべし」(『勅伝』第三十七卷)

法然上人の時代には、直接対面して行なう法話や消息、著作が布教の手段であった。もし法然上人が現代に生きておられたら、それらに加えてインターネットを使った布教をしておられるに違いない。「ZEN(禅)」という言葉はすでに世界的に知られている。ならば、「NEMBUTSU(念仏)」、「NAMU AMIDA BUTSU(南無阿弥陀

仏)」が世界共通語になってもよいだろう。しかも「ZEN」と異なり、「南無阿弥陀仏」はそれを口にしただけで最高の行となるのだ。お念仏の声が聞こえるところであれば、仮にそれがインターネット上であっても「みなこれ」宗祖の「遺跡」ではないか。

仏教の世界的な広がりとはネットの普及。国際的な開教のための条件が、ここにきて急速に整ってきたのである。

私がいまず取り組んだのは、顔が見える法話である。今の時代、文字情報だけでは説得力に欠ける。動画配信サイトYouTubeを利用して、直接語りかける形の法話を作ろう。

英語がネックではあった。だがこちらは日本人日本以外に住んだことはない。そんなに達者な英語など話せるわけがない。多少変てこりんな英語でも、英語圏の人は理解してくれる。熱意をもつ

て話せば法然上人の教えの魅力は伝わるだろう。

こうして二〇一四年(平成二十六年)、最初の英語法話をYouTubeに投稿した。(「Jodo Talk1」で検索すれば視聴して頂ける)

投稿した当初、ある信徒に言われた。

「誰に向けてやっているのですか。」

英語の法話などをネット上に載せても意味がない。誰も関心を持たない。多分そう思われている。

「海外にはそもそも檀家制度がないのだから、(お念仏を布教しようとしても)無理でしょ。」

浄土宗僧侶の方にもそう言われた。

私の期待は的外れかもしれない。だがやってみなければ分からないではないか。

英語法話を投稿してしばらく経つと、チラホラと反響の声を頂くようになった。

YouTubeに動画を投稿した翌年から、Eメールを頂くようになった。一部をご紹介しよう。頂いた質問に対し、私が回答した内容への感謝の

ことばだ。

「私の質問に答えてくれてありがとう。ここアメリカでは、ハワイやロサンゼルス市の近くに住んでいない限り、浄土宗寺院に行くことができません。浄土宗の教えについての質問に直接答えてもらえることは非常にまれで貴重なことです。とても感謝しています。」

私は一般的な浄土教の用語もよく知っています。あまり専門用語を使わずに説かれたあなたの教えを聞いたり読んだりすることは、非常に役立ちます。そのことにも感謝します。

浄土教の教え、特に法然上人の教えには十五年以上前に出会いました。そのとき以来、お念仏を称えずにはいられなくなりました。阿弥陀仏や浄土の存在について疑問を持つていたにもかかわらず、です。お念仏の経験の中で、阿弥陀仏の慈悲深い心と自分自身のつながりを感じるようになりました。今ではお念仏をわたしの命綱として頼り

にしています。あなたの言葉は私を大いに助けてくれました。それは私の念仏の経験をさらに明確にしてくれました。

とにかく、ありがとうございます。浄土宗の教えについてもっと動画を作ってほしいです。」（訳は筆者）

別の信徒からだ。

「親切で思いやりのある返事をありがとうございます。

あなたの言葉は私を励まし、私の心に喜びと慰めをもたらします。一時は浄土宗を学ぶのを諦めようと思っていたのですが、あなたの言葉が力になりました。

私は法然上人のおことばの英訳本を持っています。あなたの励ましの言葉から、法然上人が信者に宛てた手紙のいくつかを思い出しました。

あなたは私の唯一の真の法友であり、深く感謝しています。学ぶことはたくさんありますが、私なりに努力を続けます。

私はあなたの YouTube の法話を携帯に入れて、仕事に行く途中、毎日聞いています。とても役に立っています。

ナムアマミダブツ。」（訳は筆者）

私が彼らに返した答えは何も特別なものではない。あなた方が関心を持っている法然上人の教えは本当に素晴らしいものですよ、どうぞお念仏をお続け下さいねーこのような内容だ。だがこのように感謝してもらえないとは、浄土宗教師としてまことに眞利に尽きるではないか。

こうした人々は、檀家制度や先祖供養とは別の角度から浄土宗に関心を持っている。その分、ストリートに法然上人とお念仏に惹かれている。彼らの目標は自分自身の浄土往生であり、苦しみからの解放なのだ。

浄土宗の教えには、世界中の人々の心に訴える力と魅力があるのである。